

令和元年度 後援会事業計画

1. 教育助成

入学式関連

- 入学式
- 新入生オリエンテーション
- 大学入門ゼミ(平成31年4月13日)

大学説明会関連

- オープンキャンパス(令和元年7月27日・11月9日)

教育関連

- 新入生ふれあい朝食会(平成31年4月8日～12日)
- 2年次学生と教員との懇談会
- 優秀学生表彰
- 看護学専攻・検査技術科学専攻へ助成
- 全学共通教育協力金への助成

2. 国家試験対策

- 看護師等国家試験対策模試
- 臨床検査技師国家試験対策模試

3. 就職対策

- 教員による病院等の就職先への訪問

4. 医学部国際交流助成

- 国際交流協定校との交流

5. 文化行事援助

- 錦祭

6. 後援会運営

- 保健学科広報「アレスコ」発行
- 後援会役員会

編集後記

鳥取大学医学部保健学科広報アレスコ(ALESCO)第18号を発刊いたしました。

今号では、「新入生の大学入門ゼミ」、「卒業生だより」、「講座紹介」などに加えて、看護学専攻、検査技術科学専攻それぞれの国家試験対策について紹介しています。ご存知のとおり、本学では所定の単位を取得することで看護学専攻では看護師、保健師、助産師の国家試験受験資格を、検査技術科学専攻では臨床検査技師の国家試験受験資格を得ることができます。国家試験受験者の全員合格を目指して各専攻で行っている取り組みについてご覧ください。

ささやかではございますが、保護者および関係各位の皆様には、アレスコの記事を通じて、保健学科の「成長・発展(アレスコ)」の姿、ご子息、ご息女の学生生活の一端を感じ取っていただければ幸いに存じます。

保健学科広報委員 中川真由美

[発行責任者] 鳥取大学医学部保健学科後援会・鳥取大学医学部保健学科広報委員会
[発行所] 鳥取大学医学部保健学科(〒683-8503 鳥取県米子市西町86番地)
[発行年月] 令和2年2月

鳥取大学医学部保健学科広報 アレスコ



No.18

March 2020

アレスコ【ALESCO】とは古代ラテン語で

「成長する、発展する」という意味です。

INDEX

02…写真で綴る「大学入門ゼミ」

04…医学部長挨拶

05…保健学科長挨拶

06…卒業生だより

●助産師・保健師として活躍する卒業生

●臨床検査技師として活躍する卒業生

08…看護学専攻紹介 各講座のトピックス

10…検査技術科学専攻紹介 各講座のトピックス

11…教育活動1 国家試験対策

12…教育活動2 博士前期課程大学院生の紹介

13…教育活動3 博士後期課程大学院生の紹介

14…学術・研究活動

●岩波ブックレットから新著刊行

●新しい医療技術を開発する

15…地域貢献活動

●義方小学校区における健康づくり活動「けんこう茶屋」

●高大連携活動

16…新任・退職教員からのメッセージ

17…令和元年度卒業研究演題一覧

18…令和2年度学年暦・学級委員

19…平成30年度後援会事業報告・令和元年度後援会役員名簿

20…令和元年度後援会事業計画・編集後記



写真で綴る「大学入門ゼミ」

米子キャンパス見学日：2019年4月13日（土）

入学したばかりの1年生が、これから充実した大学生活を送れるように支援することを目的とした「大学入門ゼミ」という必修の授業科目があります。

大学入門ゼミの一環として2年目から学生生活を送る米子キャンパスで講義や鳥取大学医学部附属病院の見学、2年生の先輩との交流など、様々な研修が行われました。



米子キャンパスの紹介①



米子
キャンパスの
紹介②

ようこそ米子
キャンパスへ!!



みなさん、入学
おめでとうございます!

保健学科長の挨拶



先輩アドバイザーの
紹介

鳥取大学医学部附属病院の見学



いよいよ、
病院見学に
出発!



見学させていただき
ありがとうございました。



昼食で〜す!!

医学部の食堂でお弁当を
いただきました!



グループワーク〜上級生との懇談〜



先輩から大学
生活を充実させるため
のアドバイスを
いただきました!



充実した
研修を終えて、
鳥取キャンパスに
帰りました。

環境教育
〜ゴミの分別について〜

ゴミの分別に
関する
小テストを
実施します!



鳥取キャンパスへ



検査部



手術部



医学部長挨拶

医学部保健学科に寄せて

医学部長 黒沢 洋一



鳥取大学医学部保健学科は、1925年（大正14年）の財団法人西伯郡米子病院看護婦・産婆養成所を起源とし、1999年（平成11年）に看護学及び、臨床検査医学に関することを目的として設置されました。2004年（平成16年）には大学院の保健学専攻修士課程、2008年（平成20年）には博士後期課程が設置されました。2020年（令和2年）からは、大学院の保健学専攻は、大学院改組により、生命科学専攻、機能再生医科学専攻と統合して医科学専攻を設置し、従来の専門分野の枠を超えて医科学に関わる体系的・俯瞰的な思考力と医学知識を身につけた人材養成に適した教育体制を構築する予定です。

保健学科は、伝統的に他者とのコミュニケーション能力を有し、不安を抱える患者への理解やいたわりの心を持った全人的医療人、臨床実践力を有し、多職種連携によるチーム医療の中で中心的役割を果たすことができる人材養成をミッションとしてまいりました。最近では、保健学・臨床検査学、双方を融合・一体化させ、科学的根拠に基づく「心と科学の統合（統合保健学）」の樹立を掲げながら、保健学の教育・研究者の育成を強化し、全人的医療人養成の一環として医学部全体に広げようとしています。

2019年3月までに看護師、保健師、助産師、臨床検査技師など約1900名の卒業生が全国の医療機関、自治体、企業、教育研究機関において活躍しております。以上のような保健学科の発展は、歴代の保健学科長や教職員の皆様のご尽力と後援会の皆様によるご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

少子高齢化が進む、わが国で、母性並びに乳児及び幼児の健康の保持及び増進、高齢者が安心して暮らせる、地域ケアシステムの構築、急性期病院、介護福祉施設との連携を強化するための人材育成がますます必要となってきています。また、高度化する医療・看護・診断技術（認定看護師、超音波検査士、細胞検査士、認定認知領域検査技師等）への対応や医療機器の開発も必要とされています。

上記のような人材はますます必要とされ、鳥取大学医学部保健学科が果たす役割への期待も大きくなってきました。地域社会のみならず国際的に貢献できる全人的医療人、研究者の養成を目指していきますので、今後とも皆様方からのさらなるご指導、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

保健学科長挨拶

保健学科のあゆみ

保健学科長 網崎 孝志



保健学科は令和元年10月に設置20周年を迎えました。

この間、看護学専攻、検査技術科学専攻の多数の卒業生を送り出すことができました。それぞれが、医療、福祉、保健の分野で保健師、助産師、看護師、臨床検査技師として、あるいは、大学や企業で教育者、研究者として、広く活躍しています。このように、保健学科がその使命を果たし社会に貢献できたのも、卒業生の皆様、そして、保護者、後援会、同窓会の皆様の温かいご支援、ご協力の賜物と、心から御礼を申し上げます。

私は、第一期生の入学と同じ2000年4月に保健学科に着任いたしました。この20年間のなかで保健学科の二つのことがらを、紹介させていただきます。

国立大学の改革が進み、2004年には法人化が行われ、2014年ごろには、それぞれの大学それぞれの学科のミッションの再定義がなされました。そのとき、鳥取大学医学部保健学科の「強みや特色などの役割」として、まず、掲げられたのは、「他者とのコミュニケーション能力を有し、不安を抱える患者への理解やいたわりの心を持った全人的医療人」を養成することでした。この点について、これまでも保健学科では、議論を積み重ねてきましたが、その結果の一つとして今年度から授業科目「医療コミュニケーション」が開講されました。看護学・検査技術科学両専攻の学生から極めて高い評価を得ています。

一方、研究や高度職業人養成のために、2004年に大学院修士課程（博士前期課程）が、2008年には博士後期課程が設置されました。博士後期課程までを備えた大学院は、看護学については鳥取県内唯一、医用検査学については、山陰唯一の存在です。2020年4月には、生命科学専攻、機能再生医科学専攻と併せて新たに「医科学専攻」に改組されます。現在、がんゲノム医療など高度な医療への貢献が求められる中、今後、より一層、大学院教育の重要性は増すものと思われます。

入試制度改革を始めとして、今後も、大学の改革が進行すると思われます。また、世の常ではありますが、医療や研究にも科学や技術の新しい要素が誕生し、それらに対応できる人材の養成が強く求められています。そして、保健学科では、今後4年間で、退職により教授の1/3が入れ替わる予定です。このような内外の動向はありますが、保健学科では、これからも変わらず、保健、医療、教育研究でリーダーとなれるような人材の育成に努めてまいります。皆様には、今後とも、ご指導、ご支援をいただきますよう御願ひ申し上げます。

卒業生だより

助産師・保健師として活躍する卒業生

鎌田 あゆみ さん 看護学専攻 第1期生

私は保健学科看護学専攻の1期生です。助産実習での体験、素敵な助産師さんとの出会いから助産師を志し、現在は鳥取大学医学部附属病院の3A病棟で働いています。

入職当初は産婦さんが分娩直後、見る見るうちに幸せそうな笑顔になるこの瞬間が大好きで、やりがいを感じていた私ですが、自分が出産し育児を経験してからは「育児ってこんなに悩みが付きなものなのか」と身をもって体験し、妊娠中から産後の心のケアにこれまで以上に重きをおいて関わるようになりました。助産師の活躍する場は広く、自分にもまだまだやりたいことがたくさんあります。これからも「これだけは誇れるもの」を探求しながら、患者の心に寄り添える助産師であり続けたいと思います。



吉村 詩穂 さん 看護学専攻 第5期生

私は大学卒業後、鳥取県の保健師として働いています。

県の保健師の業務の中心は、精神保健、感染症対策や難病対策などですが、保健政策の企画立案を行ったり、国の動向も視野に入れて関連部署と調整し、体制づくりを行ったりしています。それに対し、市町村は直接的な住民サービスが中心のため、連携しながら業務を進めています。

現在私は2人目の子を出産して育休中ですが、『子育て王国鳥取県』を掲げていることもあり、鳥取県は子育て中の職員への支援が手厚く、子育てしながら働き続けることも可能です。

看護師を目指される方が多いかと思いますが、保健師の仕事も魅力的です。ぜひ一緒に働きましょう。



卒業生だより

臨床検査技師として活躍する卒業生

松下 有紀 さん 検査技術科学専攻 第14期生

検査技術科学専攻第14期生の松下です。大学卒業後は岡山県の倉敷中央病院に就職し、今年で3年目になります。生理検査室に配属となり、現在は心電図検査、ホルター心電図の解析、肺機能検査に携わっています。大学時代に最も興味があった心電図の検査に関わることができて嬉しいですが、県外からの患者さんも多く様々な症例を経験するため、多くの知識が必要になります。今年は部署内で定期的に行っている心電図勉強会の担当で、その資料作りをすることも多いのですが、自分では理解していたつもりでもうまく説明できないことが多々あるためまだまだ勉強が必要だなと感じています。この機会に改めて勉強しなおして、来年は認定心電技師の資格取得に挑戦しようと思っています。

知識を増やすことも大事ですが、どの検査も患者さんのためであるということを忘れず、これからも業務に励んでいきたいと思っています。



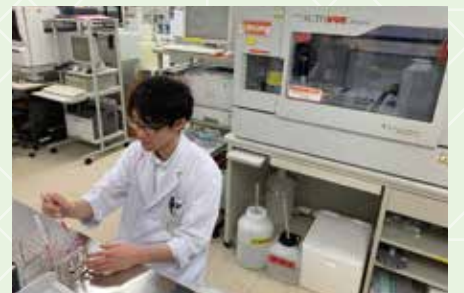
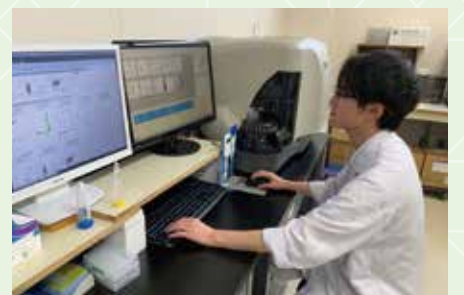
田澤 千明 さん 検査技術科学専攻 第14期生

こんにちは。私は検査技術科学専攻第14期生の田澤千明と申します。大学卒業後、国立病院機構中四国ブロックに就職し、米子医療センターに配属されました。

私が就職した国立病院機構は、転勤があり、約5～7年で異動となります。転勤には労力を伴いますが、様々な施設の技師の方々と交流し、活発な意見交換ができることが魅力となっています。また、最近の機構の考えで、地元に近いところへ配属、異動となることが多いようです。

現在、私は輸血、免疫、HLA検査を担当しています。仕事量はかなり多く、毎日忙しくも充実した日々を過ごしています。1年目から輸血検査担当となり、かなりの負担でしたが、おかげで担当検査技師としての責任の重さを知ることができました。

今後認定輸血検査技師の資格取得を目指し、励んでいこうと思っています。



看護学専攻紹介 各講座のトピックス

基礎看護学講座

◆看護を行う上で、対象を理解することの大切さを伝えたい 藤原 由記子

基礎看護学講座で担当する科目の多くは、看護学専攻の1年次前期から2年次前期の時間割に集中しています。私の担当する看護学方法論も、1年次後期に米子キャンパスで開講しており、この科目では事例をもとに看護の対象に関心を寄せつつ、対象の理解を深めることは看護の基盤となることを学びます。いつもは湖山キャンパスでの講義を受けている1年生が、慣れない米子のキャンパスでやや緊張しながらも、熱心に学習に取り組みグループワークを通して対象者にとって必要な看護について、学習を深めています。その他に、基礎看護学講座では、学生にとって初めての病院実習や看護技術を学ぶ学内演習なども担当しており、学生一人一人の感性や看護観を大切に育みつつ、学習支援に尽力しています。



成人・老人看護学講座

◆健康障害を有する人々の日常生活を支える看護を学ぶ 三好 陽子

3年次前期の専門科目「生活援助論演習Ⅲ」では、健康障害を有する人の日常生活援助技法、看護ケアの考え方と対象に合わせた専門的ケアの展開方法を学ぶことを目標としています。老年看護学分野では、脳梗塞患者の回復期リハビリテーションを支える援助をシミュレーションとグループワークを通して考察するトレーニングを行っています。学生のレポートからは、臨床を模擬的に想定して繰り返し体験できた、うまくいかなかった場面をグループメンバー全員で振り返ることで自分では気づかなかった視点を共有し、学びを深めることができたとの声が寄せられています。シミュレーション学習を通して、高齢者の理解を深め、実習への意欲を高めています。



母性・小児家族看護学講座

◆地域の子どもの未来を支える活動 大島 麻美

鳥取県の受託事業として、看護学専攻の学生を中心に「思春期ピア・カウンセラー®」を育成し、「ピア＝同年代の仲間」として、県内の中高生の「性と生の健康を守る」ための活動を行っています。学校との連絡から実施に至るまでの準備も教員と共に学生主体で行い、地域貢献する意識や能力を高めるとともに、多くの子どもたちとの出会いを通して、様々な環境にいる人々を理解し、コミュニケーション能力を高めることができていると感じています。また、私自身も、子どもや子育て支援を行う人々を支えるために、講演活動を行っています。学生、教員それぞれの立場で、“今、自分にしか出来ないこと”にどんどん挑戦していきたいと思っています。



地域・精神看護学講座

◆自立支援施設での実習で感じ、考えたことを大切に 安部 由紀

精神看護学実習では精神科病棟での実習を終えると、自立支援施設での実習が始まります。地域で暮らす精神や知的に問題を抱えておられる方が、就労を目指した閉じこもることなく社会や人との繋がりをもちたいなど様々な思いを抱えながら通って来られる施設です。菓子箱づくりやパン作り、カフェの接客、石鹸づくりなど各施設により作業内容は様々です。学生は指導者さんや利用者の方々の温かい声かけのもと緊張感も和らぎ穏やかな雰囲気の中で作業をさせて頂いています。2日間の実習ですが、学生は利用者の方の根気強さや丁寧さ人間的な純粋さに気づかされ、その力をより発揮できる環境を実現するために、看護職に就く自分たちがなすべきことは何かなど話し合います。学生は素晴らしい考えをたくさん持っているのです。ぜひ、将来どこかで花咲かせて欲しいと願います。

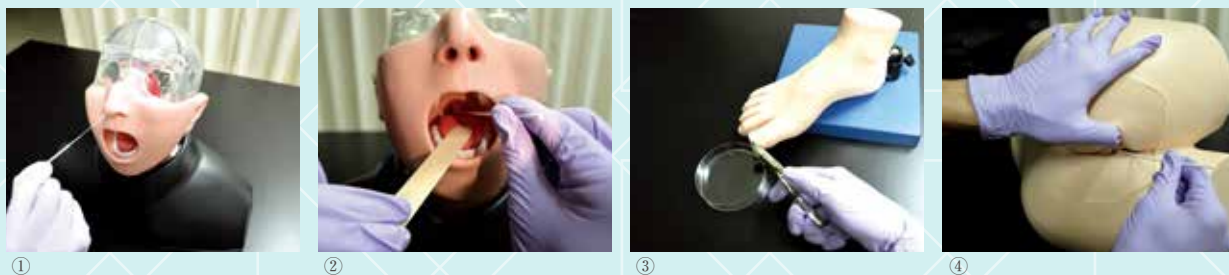


検査技術科学専攻紹介 各講座のトピックス

生体制御学講座

◆医療安全管理学の実習の紹介 浦上 克哉

医療安全管理学実習は2019年から導入されたばかりの新しい実習です。臨床検査技師が業務として可能になった検体採取の手技を学ぶことを主目的としております。鼻腔・咽頭、皮膚・口腔および肛門からの検体採取等を最新のシミュレーター機器を使って実習します。写真1は鼻腔からの検体採取を、写真2は咽頭からの検体採取を、写真3は爪から検体採取を、写真4は肛門からの検体採取を行っているところです。適切な検体採取が行えないと病気を有しているのに結果が陰性になってしまいます。インフルエンザや爪白癬等の頻度の多い病気の診断に欠かせない検体採取法です。臨床現場で即戦力として活躍できるように実習を行っております。



病態検査学講座

◆微生物学分野の紹介 高田 美也子

微生物には、細菌、ウイルス、真菌が含まれており、有益なものとしては発酵食品や医薬品まで身近に関わっているのですが、一般的には感染症＝見えない恐怖という観念にとらわれがちでもあります。1年生の湖山キャンパスでは、生物学演習にて光学顕微鏡像による微生物の観察を通じて基礎的知識を学び、2年生から3年生にかけて米子キャンパスでは微生物検査実習、病原体検査学実習と、病原性を有する細菌等について詳しく検査方法を学んでいきます。また最終学年では、ウイルスの迅速診断法など最新の技術も盛り込んだ手法により研究を行っていきます。はじめは苦手意識が強い学生さんも多いかもしれませんが、感染症診断には欠かせない分野ですので是非大学生活の中でしっかりマスターしていただきたいと思います。



教育活動1

国家試験対策

看護学専攻における看護師等国家試験対策

仁科 祐子・
吉岡 伸一（4年担任）

本校では所定の単位を取得すると看護師と保健師の2つの国家試験受験資格を得られる「統合カリキュラム」を採用しています。また10名程度ですが助産師の受験資格も得ることができます。看護師国家試験では毎年95%以上の高い合格率を維持しています。この裏には、国試対策委員の学生たちの『みんなで合格するぞ!』という思いと努力があります。春にその年の模試のスケジュールを調整し、模試の実施、結果の返却、仕事は沢山ありますが、力を合わせて目標に向かって頑張っています!



国試対策委員の3人、模試の準備中!



受験票のチェック!



模試の風景

検査技術科学専攻における 臨床検査技師国家試験対策

北村 幸郷（4年担任）

検査技術科学専攻では病院実習が終わって、毎年9月ごろから国家試験対策を実施しています。検査専攻のほぼ全員の教員が参加します。医用工学概論、公衆衛生学、臨床検査医学総論、臨床検査総論、病理組織細胞学、臨床生理学、臨床化学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学の各領域担当の教員が、別枠で時間をとって国試対策向けの授業を行っています。また、国家試験の模擬試験を計4回行い、全国データを参考にしながら、試験勉強に励んでいます。鳥取大学の検査技術科学専攻では、日ごろの授業においても、国家試験対策を意識しながら授業を行っておりますが、あくまでも大学は専門学校や予備校とは異なり、幅広い知識、技術の習得の中に国家試験対策を織り込む形でを行っています。



模擬試験



国家試験対策講義

教育活動2

博士前期課程大学院生の紹介

大学院での学びを臨床の現場に活かす

保健学専攻博士前期課程(看護学)1年
富田 恵子さん

大学病院で勤務し、教育担当の看護師長として新人看護師教育に携わっています。研究は新人看護師への支援について取り組みます。これは鳥大病院の新人看護師が、生き活きと長期的に働けるためにはどのような支援が必要なのか、と考え、現在の職務と関連するテーマにしました。

仕事が終わってから大学院に通い、週末は課題に取り組むという生活で、若い時ほどスピーディな対応はできませんが、楽しく学ぶことができています。いろいろな人たちとのディスカッションでは、様々な考え方や価値観を知ることができ、大学院の大きな魅力の一つです。

今後は、大学院での学びを臨床で活かしていきたいと考えます。



工作中



職場



大学院の仲間と先生

認知症に対する取り組み

私達の研究室では、これまでに認知症の早期発見を目的としたタッチパネル式コンピューターで行うスクリーニング検査を開発してきました。そこで私はさらに発展させ、認知症やその前段階である軽度認知障害(MCI)の発見を目的としたスクリーニング検査についての研究を行っています。秋には第9回日本認知症予防学会学術集会に参加し、これまでの研究成果を発表しました。学会発表では自分の研究分野に関する幅広い知識が求められ、多くの研究者が参加しているため、新たな知識や刺激が得られました。また、我々の研究室では研究以外にも、地域のもの忘れ検診に参加しています。

大学院では非常に恵まれた環境で多くのことを学び、有意義な経験ができました。

保健学専攻博士前期課程(医用検査学)2年
小橋 悠輝さん



教育活動3

博士後期課程大学院生の紹介

地域在住高齢者の運動習慣の獲得に向けて

保健学専攻博士後期課程3年
和田 崇さん

私が博士後期課程で取り組んでいる研究は「理学療法士によるオーダーメイド運動プログラムが運動習慣のない高齢者の運動に対する自己効力感と行動変容に与える影響について」です。健康寿命の延伸は日本の課題であり、高齢者における運動習慣の獲得がとても重要です。私たちは2014年から鳥取県日野郡日野町と協力し、特定健診・後期高齢者健診の一環として運動機能を測定しています。そこでの課題が地域在住高齢者の運動習慣の獲得でした。本研究の結果、オーダーメイド運動プログラムが運動習慣の獲得の一助になることが示唆され、それをまとめた論文“Customized exercise programs implemented by physical therapists improve exercise-related self-efficacy and promote behavioral changes in elderly individuals without regular exercise: a randomized controlled trial”がBMC Public Health誌に掲載されました。今後も病院での臨床業務だけでなく、地域貢献にも取り組んでいきたいと思っています。



看護学の未来のために

保健学専攻博士後期課程3年
山本 陽子さん

現在「看護師の看護実践能力に影響する要因」というテーマで研究に取り組んでいます。臨床で働く看護師の看護実践能力に何が影響しているのか、どのような支援が必要なのか検討しています。

仕事と並行しながらの就学は大変なことも多いです。しかし、職場の方々の理解と協力があり、何とか両立出来ています。また、社会人大学院生として共に学ぶ仲間もあり、お互いに声を掛け合いながら研鑽を重ねています。

人が成長する力を縦糸、様々な経験や出会いを横糸に例えるなら、時々ほつれたりしながらも反物を織り続けることができるよう私自身が研鑽を積み、学生や看護師の皆さんのために日々の教育や研究に取り組んでいきたいです。

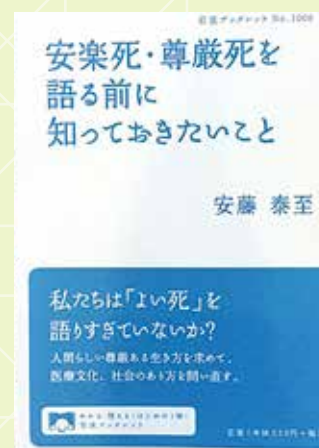


学術・研究活動

岩波ブックレットから新著刊行

昨年7月、岩波ブックレットの1冊として、著書『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』が刊行されました。ここ20年あまりの間に、欧米では安楽死や医師補助自殺を合法化する国や州が増えてきており、日本でも議論を始めるべきだという声が高まりつつあります。しかし、偏った情報や間違った知識に基づいて議論をしても何の意味もありません。その前に私たちには、知っておくべきこと、考えておくべきことが山のようにある、というのが本書でもっとも書きたかったことです。60ページあまりの薄い本で、文章も読みやすいと思います(なにより税込み500円台と安いです)。ご興味のある方は、ぜひ買って読んでみてください。

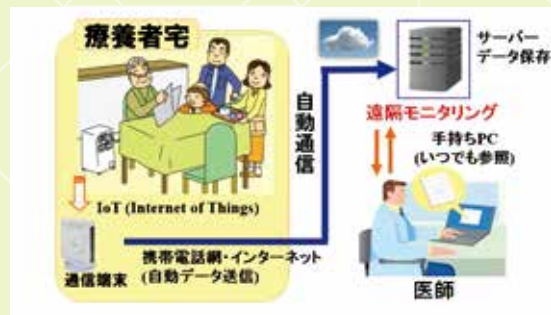
基礎看護学講座 安藤 泰至



新しい医療技術を開発する

研究テーマは、生体信号解析、時計遺伝子解析、医療機器開発などです。医療機器開発に関連して、在宅酸素療法の遠隔モニタリングを企業に協力して開発してきました。遠隔モニタリングの仕組みは、自宅などに設置してある酸素濃縮器にインターネットを介した自動通信機能を持たせて、測定結果や使用状況などをサーバーに構築したクラウドシステムに保存し、医師がサーバーの保存データを参照して医療の向上に役立てるものです(図1)。Internet of Things (IoT)の応用となります。在宅酸素療法の遠隔モニタリングは2018年度に診療報酬適用され、正式な医療技術として認められ全国の療養者が社会保険を用いて使用可能になりました。今後も、実臨床に役立つ研究を行い実用化して社会に貢献していきたいと考えています。

病態検査学講座 鯉岡 直人



(図1) 在宅酸素療法の遠隔モニタリング

地域貢献活動

義方小学校区における健康づくり活動 「けんこう茶屋」

地域・精神看護学講座 徳嶋 靖子

医学部近くのコミュニティスペース「岩倉ふらっと」を拠点に、「けんこう茶屋」の名称で、健康チェックや講座の開催等、健康づくり活動に取り組んでいます。コンセプトは、「地域の方々がふらっと立ち寄って、お茶やおしゃべりを楽しみながら健康に!」です。

特に、加茂川地蔵まつりでの健康チェックは、学生さんの個性とアイデアが際立ちます。今年は学生が作成した健康教育教材が子どもたちに大人気でした。参加者の皆さんをはじめ、各自治会の方々からの応援はいちばんの励みになっています。ご意見やご助言から学ぶことはもちろん、健康づくりの根っこを学生とともに実感する場でもあります。他機関、団体とも連携し、より地域に根づいた活動を目指したいです。



けんこう茶屋



地蔵まつりでの健康チェック



テーマに合わせて教材もユニフォームも手作り

高大連携活動

生体制御学講座 上田 悦子

食物から摂取する食品成分や栄養素が、分子レベルでどのように生体内で働くのか、ということに興味を持って研究しています。その一環として、約10年前より県内の高校の先生と連携し「食品と遺伝子」に関する高校での出張授業を始めました。扱う内容は様々ですが、毎回機材を持ち込んで何らかの体験や実験をってもらうように心がけています。今回は食領域を専門に学ぶ高校生を対象に、「食の安全・安心」をテーマにした授業を行い、食品の遺伝子検査の一例を実際に体験してもらいました。高校では扱わない難しい内容も含んでいましたが、実験には興味を持って取り組んでもらえたようでした。



講義の様子



分析用器具の扱い方を知る



実際に「電気泳動」実験を体験した

新任・退職教員からのメッセージ

退任のご挨拶

病態検査学講座 廣岡 保明

平成19年4月に鳥取大学医学部第一外科から医学部保健学科病態検査学講座に異動し、教育・研究に12年間努力してまいりましたが、令和元年8月より鳥取県立中央病院・外科(副院長)に赴任することとなり、過日着任いたしました。

保健学科在任中は主として生理検査(画像診断含)教育を担当し、同時に保健学専攻大学院生とともに超音波検査(エコー)に関する研究を行ってきました。特に、消化器疾患に対する体外式超音波検査(2D, 3Dエコー)で胃癌や大腸癌の壁深達度診断や、疾患の可視化を進めることができました。また、保健学科長、副医学部長、医学部長などを歴任させていただき、大過なく勤めることができましたのも、保健学科のみならず医学部の諸先生方のおかげと大変感謝しているところでございます。定年前に大学を去ることに一抹の寂しさを感じておりますが、新しい環境での使命を果たしていきたいと思っております。

末筆ではございますが、今後の保健学科のさらなる発展を祈念するとともに、引き続きのご指導を賜りますようお願い申し上げます。



新任教員紹介

病態検査学講座 加藤 雅彦

令和元年7月1日より鳥取大学医学部病態情報内科(旧第一内科)より保健学科検査技術科学専攻 病態検査学講座に着任いたしました加藤雅彦と申します。病態情報内科では生活習慣病、尿酸代謝、睡眠時無呼吸症候群、疾患関連睡眠障害、心不全の診断・治療、心臓リハビリテーションなどを専門に臨床・研究・教育に携わって参りました。鳥取大学医学部附属病院では多職種協働による心臓リハビリテーションを推進しており、メディカルスタッフの育成にも精力的に取り組んでおります。今後優秀な臨床検査技師を育てるべく全力を注いで参る所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



令和元年度 卒業研究演題一覧

基礎看護学講座

1. 骨粗鬆症患者のQOLに影響を与える要因の検討
2. リエゾンナースのかかわりによる骨粗鬆症性骨折患者の骨折予防に対する認識過程
3. 乳がん患者のレジリエンスを促進した要素
4. 乳がん患者の再建に至るまでの受容過程に影響する要因
5. 看護実践のリフレクションによる自己への気づき ―リフレクションにおける5つのスキルを活用して―
6. 死をめぐる自己決定 ―日本で安楽死は可能なのか?―
7. 遺伝性疾患児を妊娠あるいは出産した経験がある親の次子への思いと看護職者の役割に関する文献検討
8. 「死にたい」と話す患者をどう支えるか? ―看護師にできること―
9. 在日外国人の日本での医療体験をめぐる実情と課題
10. 心不全患者の退院支援における共感のプロセスについて ―動的な他者理解と自己の変容に着目して―
11. 入院患者に対するアロマテラピーによるリラクゼーション効果
12. 急性期病院における入院患者の転倒インシデントの検討 ―KHCoderによる分析から―

成人・老人看護学講座

1. 神経難病患者の家族が抱える介護負担に関する文献検討
2. 救急搬送後の患者家族のニーズと看護
3. 外国人看護師が日本で働くために必要なサポートの示唆
4. 高齢者の自動車運転に関する研究の動向と課題 ―Text Mining (KH Coder)による分析―
5. 子育て期にある初発女性乳がん患者の子供への非告知についての体験
6. 終末期がん患者に関わる看護師の困難感に関する文献検討

母性・小児家族看護学講座

1. 長期入院する患児の家族が抱く思いと看護師の関わりに関する文献検討
2. 長期入院が小児の健康と生活に与える影響に関する文献検討
3. 自閉症スペクトラム障害および自閉症傾向にある幼児の偏食に関する要因と援助についての文献検討
4. 幼児期の遊びと成長発達に関する文献検討
5. 不登校傾向に関する研究の動向と課題についての文献検討-2009年以前とそれ以降の比較-
6. 手術を受ける子どもに対するプレパレーションの不安軽減の効果とその関連因子についての文献検討
7. 未受診妊婦の現状を踏まえたケアに関する文献検討
8. 助産師が行う産後の母乳育児支援に関する文献検討
9. 児童虐待における世代間連鎖の原因と取り組み、課題に関する文献検討
10. 知的障害のある母親の出産・育児に対する支援の文献検討
11. NICUにおける父子の愛着形成過程での父親の体験と看護者の支援に関する文献検討

地域・精神看護学講座

1. 在宅療養者と家族の意思決定の際に生じる思いに関する文献検討
2. 発達障がいにおける絵カードによるコミュニケーションの効果についての文献検討
3. てんかんを持つ患者とその患者の病気認知に関する文献検討
4. 精神障害者が地域生活を送るために必要とされている服薬支援を中心とした精神科訪問看護の現状や課題についての文献検討
5. 地域での包括的な支援における保健師の役割についての文献研究
6. ソーシャルキャピタルの研究の動向に関する文献研究
7. 介護予防教室の効果と課題に関する文献検討～介護予防教室の質を高める支援～

生体制御学講座

1. NPC1依存性コレステロール輸送におけるORP11の役割
2. 認知症に関する知識の現状と学習効果の検討
3. アミロイドβ1-42が異常なタウのリン酸化を引き起こすメカニズムの解明
4. 分子動力学シミュレーションで見られた酸素化ヘモグロビンの立体構造変化
5. 成体マウス脳における増殖細胞の追跡

病態検査学講座

1. インフルエンザウイルスの亜型同定と新しい遺伝子学的検査法の開発
2. Cross-Mixing Test における凝固因子インヒビター擬似試料の検討
3. 健常者における体外式超音波検査を用いた膵臓エラストグラフィの検討
4. 遺伝子多型による個人識別
5. セザリ―症候群経過中に結核と敗血症を併発した剖検例

令和2年度 学年暦・学級委員

鳥取キャンパス 学年暦(1年次のみ)

事 項	月 日
学年開始(前期開始)	4月 1日(水)
春季休業日	4月 1日(水)～4月 7日(火)
全学共通科目説明会	4月 1日(水)
入学式	4月 6日(月)
各学部オリエンテーション	4月 7日(火)
前期・第1クォーター授業開始	4月 8日(水)
水曜日の振替授業	5月 1日(金)
月曜日の振替授業	5月28日(木)
鳥取大学記念日	6月 1日(月)
前期(第1クォーター)予備日	5月30日(土), 6月10日(水)
前期(第2クォーター)授業開始	6月11日(木)
前期(第2クォーター)予備日	8月 1日(土), 8月11日(火)
夏季休業日	8月12日(水)～9月30日(水)
前期終了	9月30日(水)
後期開始	10月 1日(木)

事 項	月 日
後期・第3クォーター授業開始	10月 1日(木)
火曜日の振替授業	11月 5日(木)
月曜日の振替授業	11月20日(金)
後期(第3クォーター)予備日	11月14日(土), 11月30日(月)
後期(第4クォーター)授業開始	12月 1日(火)
冬季休業日	12月26日(土)～1月 4日(月)
月曜日の振替授業	1月 7日(木)
月曜日の振替授業	1月12日(火)
金曜日の振替授業	1月13日(水)
大学入試センター試験準備による休講	1月15日(金)
後期(第4クォーター)予備日	1月23日(土), 2月 5日(金)
卒業式	3月17日(水)
春季休業日	2月 6日(土)～3月31日(水)
学年終了(後期終了)	3月31日(水)

※休業日においても授業等を実施することがあります。

米子キャンパス 学年暦(2年次以降)

事 項	月 日
学年開始(前期開始)	4月 1日(水)
進級生オリエンテーション	3月31日(火)
前期授業開始	4月 1日(水)
鳥取大学記念日	6月 1日(月)
前期授業及び試験終了	8月21日(金)
夏季休業日	8月22日(土)～9月30日(水) ※看護学専攻3年次は8月22日(土)～8月30日(日)
前期終了	9月30日(水)

※都合により変更する場合があります。

事 項	月 日
後期開始	10月 1日(木)
後期授業開始	10月 1日(木)
冬季休業日	12月26日(土)～1月3日(日) ※看護学専攻3年次は12月23日(水)～1月3日(日)
後期授業及び試験終了	2月24日(水) ※看護学専攻3年次は2月26日(金)
卒業式	3月 5日(金)
春季休業日	2月25日(木)～3月31日(水) ※看護学専攻3年次は2月27日(土)～3月31日(水)
学年終了(後期終了)	3月31日(水)

看護学専攻 学級委員

入学年度	学年	氏 名	所属講座
令和 2年度	1年生	金田 由紀子 講師 / 高間 さとみ 講師	地域・精神看護学
令和元年度	2年生	鈴木 康江 教授 / 佐々木 くみ子 教授	母性・小児家族看護学
平成30年度	3年生	谷村 千華 准教授 / 野口 佳美 講師	成人・老人看護学
平成29年度	4年生	笠城 典子 准教授 / 山本 陽子 助教	基礎看護学

検査技術科学専攻 学級委員

入学年度	学年	氏 名	所属講座
令和 2年度	1年生	加藤 雅彦 教授 / 石黒 尚子 助教	病態検査学
令和元年度	2年生	網崎 孝志 教授 / 藤原 伸一 准教授	生体制御学
平成30年度	3年生	鯉岡 直人 教授 / 佐藤 研吾 講師	病態検査学
平成29年度	4年生	森 徹自 教授 / 上田 悦子 講師	生体制御学

●両専攻とも1年生については、上記保健学科教員以外に、湖山キャンパスの教員数名が学級委員として学生の指導・相談の任にあたっています。

平成30年度 後援会事業報告

1. 教育助成

入学式関連

- 入学式
- 新入生オリエンテーション
- 大学入門ゼミ(平成30年4月14日)

大学説明会関連

- オープンキャンパス(平成30年7月28日・10月27日)

教育関連

- 新入生ふれあい朝食会(平成30年4月9日～13日)
- 2年次学生と教員との懇談会
- 優秀学生表彰
- 看護学専攻・検査技術科学専攻へ助成
- 全学共通教育協力金への助成

2. 国家試験対策

- 看護師等国家試験対策模試
- 臨床検査技師国家試験対策模試

3. 就職対策

- 教員による病院等の就職先への訪問

4. 医学部国際交流助成

- 国際交流協定校との交流

5. 文化行事援助

- 錦祭

6. 後援会運営

- 保健学科広報「アレスコ」発行
- 後援会役員会

令和元年度 鳥取大学医学部保健学科後援会役員

役職名	氏 名	学年(年次)	備考
会長	小林 健市	検査4年	
副会長	西村 正男	検査4年	
副会長	南川 英貴	看護2年	
常任理事	田邊 茂行	検査2年	
理事	本間 志穂	検査2年	
理事	田仲 尚子	検査2年	
理事	小原美奈子	看護1年	新規
理事	山増 茂幸	看護1年	新規
理事	杉原 英吾	看護1年	新規
理事	澤本 太	検査1年	新規
監事	足立 智彦	看護2年	
監事	澤口 早苗	看護2年	

役職名	氏 名	役職指定
顧問	網崎 孝志	保健学科長
顧問	松浦 治代	医学部学生生活委員会委員(看護)
顧問	鈴木 康江	同上
顧問	浦上 克哉	医学部学生生活委員会委員(検査)
顧問	中川真由美	同上
会計	柴田 栄治	学務課長